忍阪周辺の古墳探訪（3）

万葉歌人で額田王の姉といわれる

⑦鏡王女墓

（忍阪）

墳　形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備　考
円　墳	直径約15m	横穴式石室？	7C？	

鏡王女墓には以前19本の松がそびえ、それは素晴らしい景観であった。しかしながら、この松も虫害で今は無く、いまは植林された杉が年月を重ねうまく古墳と同化している。

鏡王女は、はじめ天智天皇の妃で、後に藤原鎌足の正室となったと言われている。鎌足との関係で、談山神社とつながりが強く、かって談山会（消滅）の建てた看板があるが、今は民有地で忍阪区の老人会が中心となって維持管理されている。

古墳としての詳細は不明であるが奈良県教育委員会発行の「奈良県遺跡地図」には鏡皇女陵15A-76円墳、直径15mとだけ記されている。平安時代前期に編纂された「延喜諸陵式」に舒明天皇の領域内にあると記録されているが、舒明天皇との関係は明確ではない。

埋葬施設は未調査で築造年代を特定する材料はないが、立地場所は外鎌山（忍坂山）の南斜面の小さな支尾根に造られ、風水思想に基づいた終末期の古墳の特徴を備えている。

欽明天皇皇女の

⑧大伴皇女墓

（忍阪）

墳　形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備　考
円　墳	直径約15m	横穴式石室？	7C？	陵　墓

鏡王女墓の裏手にまわると、大伴皇女墓の説明板があり、その場所から畑の脇の山道を登り切った所に石垣を積んだ立派な墓がある。宮内庁が管理する押坂内陵である。「三方山囲み」の南面する地勢に造られた単独墳で立地からみると終末期古墳の可能性が考えられる。

調査は大正年間に行われた測量調査のみでその実態はよくはわからない。興味深い資料として、戦前に刊行された【磯城】という本に数行だけではあるが大伴皇女墓は桜井市にある花山西塚古墳のように奥室を持つ古墳として伝承されているとの記事があり興味をそそられる。

「日本書紀」には、欽明天皇と蘇我稲目の娘・堅塩姫（きたしひめ）との間に生まれた七男六女の名前を列挙している。その中には、後の用明天皇や推古天皇の名もあり、第９番目に大伴皇女の名と共に大伴皇女は聖徳太子の叔母という事になる。

日本唯一の六角石室を持つ

⑨忍坂8号墳

（旧忍阪、現在朝倉台）

墳　形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備　考
円　墳	直径約12m	磚積式 六角形石室	7C中頃	

忍坂古墳群は外鎌山の西にのびる尾根上及び、南斜面に位置した古墳群で、団地造成に伴って約10基の古墳が調査されている。調査後1・2・8・9号墳は団地内の古墳公園に移築されたが、その他はすべて調査後に消滅した。

この古墳群で一番注目を集めたのは8号墳で、南斜面に築かれた直径約12mの円墳（多角形墳の可能性あり）周囲に幅約3mの濠を巡らせていた。埋葬施設は加工した榛原石（室生安山岩）によって築かれた磚積式石室で石室の南半分や上部は既に失われていたが、日本で初めて見つかった6角形の特異な石室で南西部には羨道部があったものと推定されている。出土遺物は石室内から、歯1個と銅製釘4点、ガラス玉約100点、須恵器杯蓋片1点、周濠より土師器甕１点が発見されている。移築されてるとはいえ、元の場所から周囲の土ごと移築されたという例は少なく、いかに重要な古墳であったかがうかがえる。尚、隣に移築された9号墳も多角形墳の可能性のある磚積式石室である。

おっさか 忍阪周辺の古墳探訪

エンドウ山1号墳

～体験しよう！桜井の古墳ワールド！～

桜井市の市街地の東南部に位置する忍阪周辺には、飛鳥時代を拓いた舒明天皇の陵とされる段ノ塚古墳、真の崇峻天皇陵と考えられている古墳ファンに人気の赤坂天王山古墳（1号墳）などお馴染みの古墳に加え、我が国唯一の六角形の石室を持つ忍坂８号墳、小ぶりながら見事な切石の石室を持つエンドウ山1号墳、珍しいドーム型石室のカタハラ1号墳など特徴のある古墳が沢山あります。

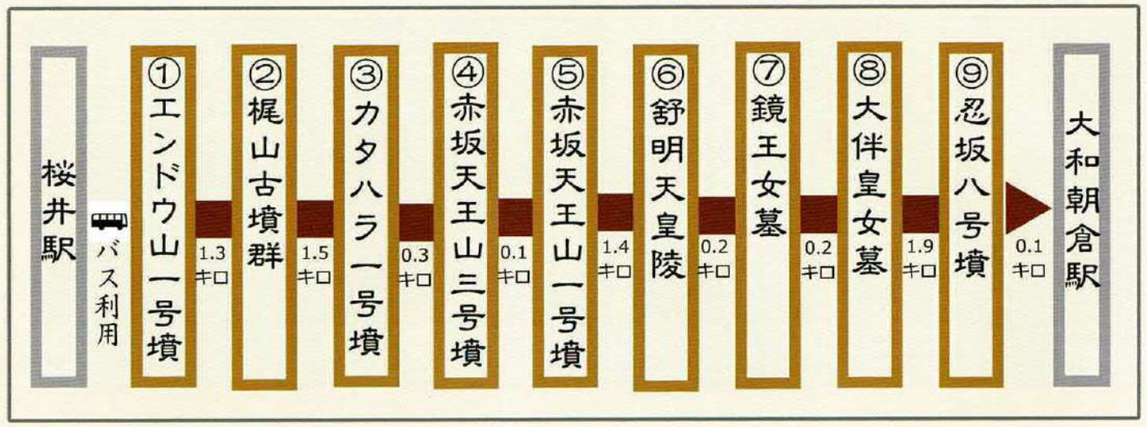
ここ忍阪周辺は、記紀万葉すべてにその名が見られる歴史の舞台であると共に、後期及び終末期古墳の宝庫です。古代のタイムカプセルともいうべき古墳の数々を記紀万葉の地「忍阪」で体験いただければ幸いです。

編集：一般社団法人 桜井市観光協会　　発行：桜井市おもてなし仕組みづくり協議会

文中の「忍阪」と「忍坂」は現在の行政名である「忍阪」と、歴史的な名前を意味する「忍坂」で使い分けをしております。

モデルコース（※全行程約7㎞）

※桜井駅からバス利用の場合



・忍阪周辺を巡る古墳ファン必見の探訪コースです。（雨天時や足元の悪い時は「エンドウ山古墳群」は見学できません）

古墳探訪・・その前に

日本のはじまりの地、桜井市には、女王卑弥呼の墓ではないかと言われる箸墓古墳をはじめ、ヤマト王権発祥の地に相応しい古墳が数多く残ります。
そんな桜井の古墳の中から、今回は忍阪周辺にスポットを当て探訪可能な、おすすめの９基の古墳についてご案内いたします。出かける前には以下の事に留意され古墳探訪をしていただくようお願いいたします。

①マナーを守ろう！

○今回、ご案内の古墳の多くは横穴式石室が開口しており石室内に入り見学する事ができます。しかしながら古墳は文化財であると同時にお墓であるという事を忘れてはなりません。近くに所有者の方、あるいは、ご近所の方がおられれば、お声がけしてから入ってください。
○古墳の石材や遺物を持ち帰ることは法律により罰せられます。

②安全に！

場所によっては、雑草や熊笹が生い茂り、道なき道を探索する場合もあるかと思いますのでくれぐれも安全対策の上、お出かけください。（このコースでは軽登山靴、軍手、帽子、磁石、懐中電灯、ＧＰＳ付携帯電話等の持参がいいでしょう）

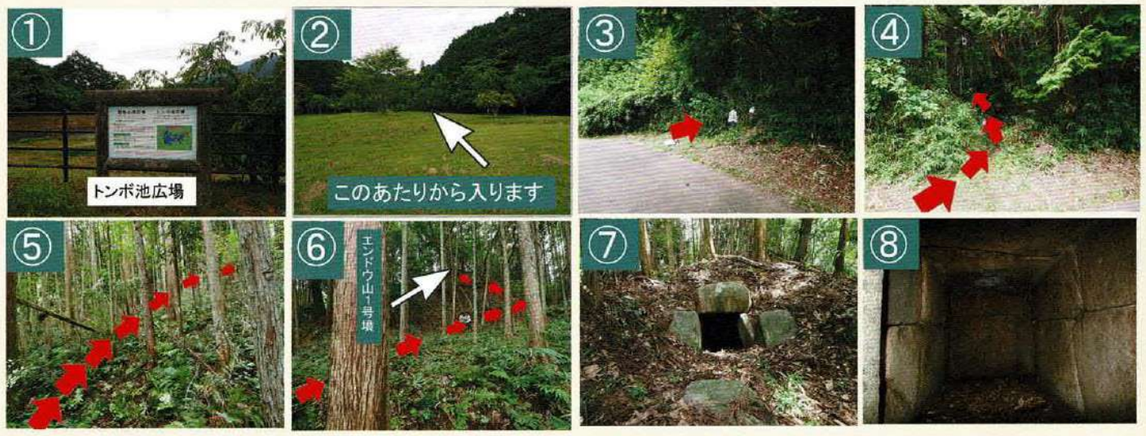
忍阪周辺古墳マップ

この地図は桜井市発行の都市計画図をベースに作成したものです。

古墳探訪ガイド

探し難い古墳を写真地図でご紹介！

エンドウ山古墳群



古墳への道はありません。足場が悪いので注意しながら探索ください。（雨天時は避けた方がいいでしょう。）
①トンボ広場の説明板です。写真は溜池方向ですがエンドウ山古墳群は山側です。②矢印の所から入ります。（順調にいけば3分位で到着できるでしょう。）③入口の拡大写真です。④矢印方向に入って左に進みます。⑤丘陵に向かってやや右方向に進みます。⑥正面の丘陵の頂上にエンドウ山古墳群がありますが勾配が急なので一旦、丘陵の裾を右に進み、登りやすそうな場所を探し頂上まで約10m程度登りきり、南側に回ると写真のように1号墳の開口部が見えてきます。
⑨精美な横穴式石室です。

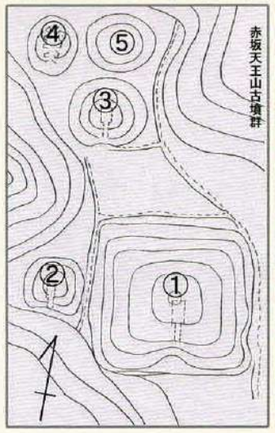
梶山古墳群

水没を逃れた古墳群の一部がまほろば広場北側の雑木林の中に存在しています。
①まほろば広場の説明板から1～2分の所にあります。②そばまで行くと古墳の説明板があり、すぐ横に15C-32が開口しています。石室内の見学は可能です。そして10mほど左の溜池側に15C-30という古墳が開口しています。（フェンスがありますが石室内の見学が可能です。）

赤坂天王山古墳群

①赤坂天王山古墳群の全景です。この丘陵の中に国史跡で大型の方墳である１号墳を中心に10基以上の古墳があります。また道路を挟んですぐ横に、カタハラ古墳群があります。
②赤坂天王山古墳の説明板の後ろの、あぜ道に入ります。
③すぐにあぜ道が二つに分かれますが、1号墳に行くには写真のように左に曲がってください。（ちなみに右に行くと1号墳の墳丘裾を反時計回りに進むと右手に赤坂天王山3号墳が見えてきます。）
他の古墳については右の赤坂天王山古墳群の全体イメージ図を参考に探索下さい。この古墳群は夏場も比較的雑草が少なくオールシーズンで見学可能です。

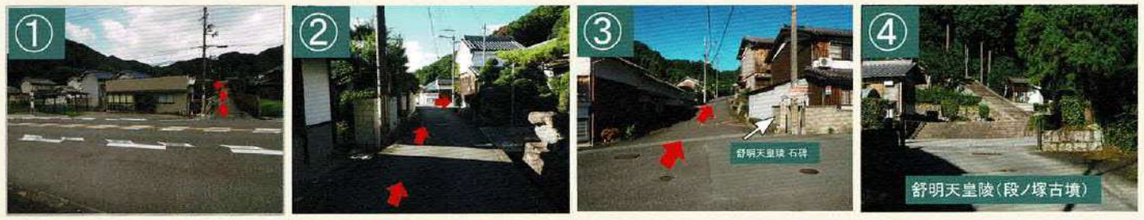
- ●１号墳（国史跡）石室内見学可能（但し懐中電灯必要）
- ●２号墳（開口しているが土砂の流入で入室不可）
- ●３号墳（開口しており入室可能・懐中電灯必要）
- ●４号墳（横穴式石室の痕跡のみ確認可能）
- ●５号墳（未調査で実態不明）



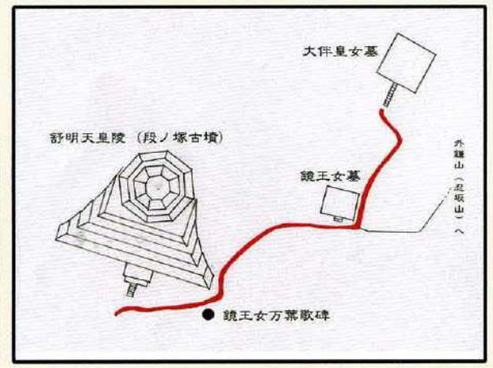
カタハラ古墳群

カタハラ古墳群は国史跡の赤坂天王山古墳のすぐ東側に位置し6基の古墳で構成されています。そのうち１～3号墳は発掘調査が行われています。尚、未調査の4～6号墳のうち6号墳は今も小石室を確認する事が出来ますが現在畑地として利用されています。
今回、ご紹介するのは市史跡の1号墳についての行き方です。
①赤坂天王山古墳の横の道路を東方向に進みます。下り尾（さがりお）に向かう道です。②緩やかな上り坂を進むと左側に写真のような擁壁に囲まれたカタハラ1号墳が見えてきます。（赤坂天王山古墳群から徒歩約5分）③石室は現在、安全確保のため開口部が封鎖されています。④これは発掘調査時の石室内の写真です。（写真は桜井市教育委員会提供）

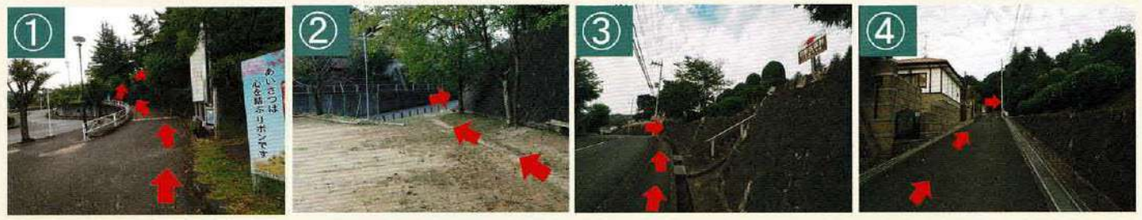
舒明陵・鏡王女墓・大伴皇女墓



①国道165線沿いの忍坂のバス停から写真のように東方向（外鎌山の方向）に進み突き当りを左折します。
②20mほど進み三差路を右折します。③そのまま約50mほど直進します。
④舒明天皇陵、到着です。石段を上り拝所に向かいます。鏡王女墓、大伴皇女墓につきましては右のマップを参考に探索下さい。



忍坂古墳群



忍坂古墳群は4基が移築して保存されています。

①近鉄大和朝倉駅南出口を降り写真のように進みます。坂道の途中に石段があり、登りきると公園があります。
②公園を横切り舗装された広い道の側道を右方向に進みます。
③すぐに写真のような忍坂古墳群の看板が見えますが更に進み、次の道で右折します。
④15メートルほど直進し突き当りの右側一帯が忍坂古墳群です。

忍阪周辺の古墳探訪（1）

高度な切石技法を用いた

①エンドウ山1号墳

（倉橋）

墳　形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備　考
円　墳	直径約10m	横穴式石室	7C後半	

倉橋溜池周辺には水没したものも含め70基以上の後期や終末期古墳が存在する。エンドウ山古墳群は溜池の西側の尾根にあり1号墳は直径約10m、高さ約2.5mの円墳で、ほぼ南向きに開口している。埋葬施設は切石技法を用いた花崗岩で造られた全長4.7mの両袖式の横穴式石室である。

玄室は2段積みで天井石は2石使われ石材の隙間には漆喰の痕跡が見られる。羨道部は1段で天井石は1石であるが入口付近に羨道部の天井石と思われる石材が落ち込んでおり本来は2石で構築されていたと思われる。

調査は測量調査のみで、出土遺物は不明であるが、高度な切石技法を用いた石室の特徴から築造年代は７世紀後半と考えられ、倉橋溜池周辺の古墳では最も新しいものと思われる。 尚、1号墳の背後に天井石と思われる石材と墳丘と思われる高まりがあり2号墳とされているが実態は不明。

倉橋溜池造成時、水没を免れた

②梶山古墳群

（倉橋）

墳　形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備　考
円　墳	直径約10m	横穴式石室	6C後半～7C中頃	

梶山古墳群は、音羽山から派生する一尾根の先端部に築かれた古墳群である。倉橋溜池の造成時、古墳群（43基）の多くは水没や破壊の運命にあり1946年、末永雅雄博士の指導で水没予定の４基の古墳について調査が行われた。調査されたのは、いずれも直径8m前後の円墳で横穴式石室を持つもので3号墳からは須恵器の甕が合口で出土、4号墳からは脚付子持ち壺などが出土している。

現在、これらの古墳は見られないが、水没を免れた古墳群の一部が見学できる。15C-30は直径約16mの円墳で、両袖式横穴式石室は全長8.5m、玄室長3.6m、幅1.6m。羨道幅は1.4m。石材の積み方などから６世紀後半から７世紀初頭頃の築造と考えられる。15C-32は直径約9.5mの円墳で両袖式の横穴式石室を持ち、全長6.7mで羨道部が長さ2.9m、幅1.2m、高さ約1m。玄室部は長さ3.8m、幅2.2m、高さ2.5mで15C-30より玄室は一回り大きく石積みは比較的平面が平らなものを内側に向けている。15C-30とあまり変わらない時期の築造と思われる。

ドーム式石室が完存する

③カタハラ1号墳【市史跡】

（倉橋）

墳　形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備　考
円　墳	直径13～18m	横穴式石室	6C中頃	市史跡

カタハラ古墳群は、音羽山から北西に派生する小尾根の一つに築造された6基からなる古墳群で多数の土坑墓群も存在する。また、この古墳群の西側の同一尾根上に赤坂天王山古墳群が築かれており、その関連性にも興味が持たれる。調査は1～3号墳で4～6号墳は未調査。この古墳群で特に注目されるのは１号墳で窮窿式（ドーム型）とよばれる極めて珍しい石室で）被葬者は渡来系集団とのかかわりが考えられている。

●1号墳・・・直径13～18mの円墳の右片袖式横穴式石室を持ち南西方向に開口している。現存長は6m、玄室長3.5m、幅2m、高さ3m、羨道部長2.5m、幅１m、高さ1.5m。石材は奥壁が8段程度、側壁が７段程度で構成され高さ1.5m位から上部を四方から持ち送って角部には三角持ち送りの石材を入れ、角をつくらないようにし天井部の面積を狭くした窮窿式（ドーム型）と呼ばれる石室である。出土品としては須恵器杯蓋と土師器長頸壺のほか、本古墳出土とされる須恵器高杯などが伝えられている。現在は石室が土圧の為、傾いており立ち入りはできない。

忍阪周辺の古墳探訪（2）

被葬者に崇峻天皇説もある

④赤坂天王山1号墳【国史跡】

（倉橋）

墳　形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備　考
方　墳	一辺50m	横穴式石室	6C末頃～7C初頭	国史跡

音羽山から北西に派生する小尾根の先端に築かれた赤坂天王山古墳群は大型の1号墳を中心に古墳状隆起を含め10基以上築かれている。
1号墳は一辺50m、高さ9m、3段築成の大型方墳で内部構造は南に開口する巨大な両袖式の横穴式石室で巨大な花崗岩の自然石が用いられている。全長は16mで玄室中央には6個の縄掛け突起を持つ二上山白色凝灰岩製の刳り貫き式石棺が安置されている。
正式な発掘調査は実施されていない為、出土遺物等は不明であるが、石室の特徴から6世紀末頃～7世紀初頭頃につくられたと考えられている。

幕末までは崇峻天皇倉梯岡上陵の候補地とされたこともあったが、現在は別の場所が指定されている。しかしながら、倉橋地区で天皇陵に相応しい規模の古墳は、この赤坂天王山古墳をおいて他になく、今も研究者の間では真の崇峻天皇陵という考えが有力である。

閉塞石が良好に残る

⑤赤坂天王山3号墳

（倉橋）

墳　形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備　考
円　墳	直径約30m	横穴式石室	6C末頃～7C初頭	

赤坂天王山1号墳の北側にある直径約30m、高さ4.5mの2段築成の円墳である。石室開口部の閉塞石が上部を除き良好に残存しており、閉塞石の積み方を考える上で参考になると思われる。石室へは閉塞石の破壊された所から石室内に入って見学が可能である。

内部構造主体は南に向かって開口する両袖式の横穴式石室で墳丘規模に対して比較的大きな石室を持つ。全長9.4m、玄室長4.3m、幅2.5m、高さ2.6mで、玄室には敷石と思われる小石材が残っている 。羨道部は長さ約6m、幅1.7mである。

出土品については知られていない。築造年代については1号墳と比べ石材の積み方など古い要素もあるが、古墳自体の規模による格差も考えられ、特定はできないが、1号墳と同時期（6世紀末頃～７世紀初頭）もしくは直前と考えられている。

初めての八角墳

⑥舒明天皇陵（段ノ塚古墳）

（忍阪）

墳　形	大きさ	埋葬形式	築造年代	備　考
上八角下方墳	南北80m、東西110m	横穴式石室	7C中頃	陵　墓

舒明天皇陵は外鎌山の山麓より南に延びる尾根の先端に築かれた上八角下方墳である。 全体の大きさは南北で約80m、東西で約110mで、八角墳丘部の対辺間の距離は約42m、高さは約12mで、当時としては最大級の規模を誇る。方形段の裾には自然石の花崗岩の列石を並べ、八角墳丘部は榛原石を、基底部は小口積み、斜面は平積みにして墳丘を飾っている。
飛鳥時代の大王、天皇の墓制は、この段ノ塚古墳を始まりとして、舒明の曾孫の文武天皇まで八角墳が造られ続ける。

舒明天皇は日本書紀によると、舒明13年（641年）に崩御され、翌々年の皇極2年（643年）に「押坂内陵」に改葬されたとあり、母親の田村皇女は天智3年（664年）に亡くなった事が記されている。平安時代に書かれた『延喜式』では、田村皇女は舒明天皇陵内とされている事から合葬されている可能性がある、忍阪周辺には同時代の有力な古墳は舒明天皇陵をおいて他になく、研究者の間でも被葬者は舒明天皇と母親の田村皇女の可能性が高いと言われている。